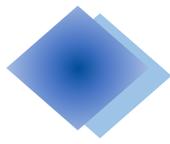


藻類除去事業の背景

- 伊江島海の会(漁業者、ダイビング業者などで構成)は、漂着・漂流物の処理、オニヒトデ駆除などに取り組んでいる。
- その中でもサンゴが荒廃したエリアを中心に、**海底の付着堆積物の除去(岩盤清掃)**を継続して行ってきた。
- この岩盤清掃を**サンゴの一斉産卵前に行うことで、サンゴ幼生の定着を促す効果**がみられたと考えられ、数年後のサンゴ被度回復に繋がった。
- これらの健全なサンゴ礁を保全してきた成果が評価され、第37回全国豊かな海づくり大会福岡大会の「漁場・環境保全部門」で最高賞の大会会長賞を受賞。



出典) 水産多面的機能発揮対策情報サイト「ひとうみ.jp」, <https://hitoumi.jp/>



試験区の設定

試験区名称	内容
処理区 1	金ブラシを使用。表層の海藻類を除去。 ※生物相（サンゴモ等）は一部残す。
処理区 2	ハサミ等を使用し、藻類の根を残す。
処理区 3	ハケなどを使用し、礫、砂、浮泥を除去。
対照区	処理を実施しない。

1. 試験区の設定、除去処理

※産卵想定期間前（4月下旬）

・ 各処理の結果は下記の通り

【処理区1(金属ブラシ処理)】

おおよそ岩盤が露出した状態を実現した。

【処理区2(タワシ・ハサミ処理)】

イワノカワ類などの被覆性海藻類が残った。

【処理区3(礫等の除去処理)】

礫、砂、浮泥が除去された。

・ 処理に要する時間

金属ブラシ：10～15分/枠

タワシ：5～10分/枠

礫等の除去：3～5分/枠



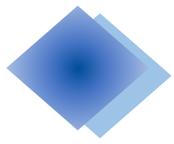
作業状況(処理区1: 金ブラシ)



作業状況(処理区2: タワシ)



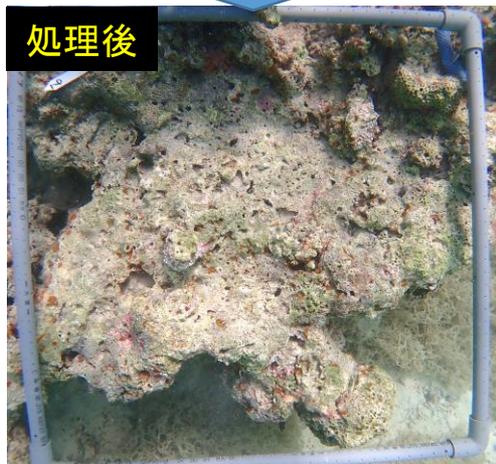
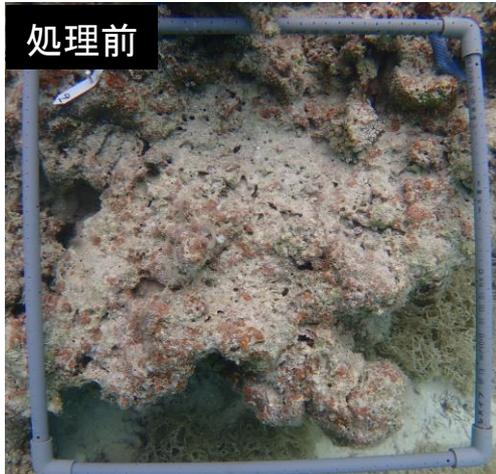
作業状況(処理区3: 礫等除去)



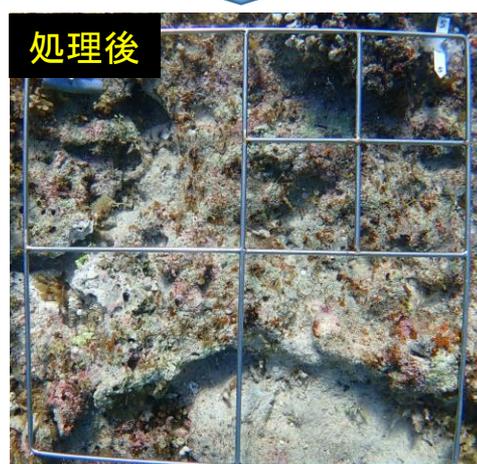
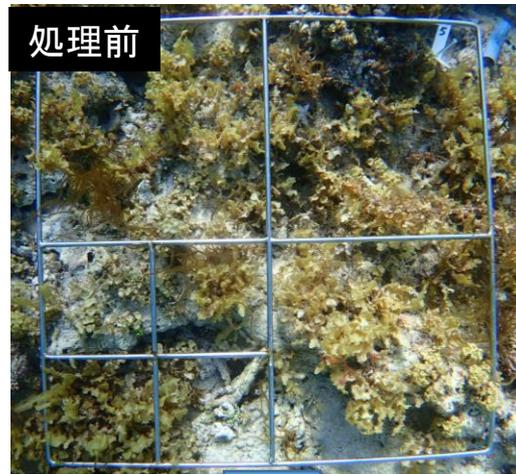
藻類等除去の状況

試験区名称	内容
処理区 1	金ブラシを使用。表層の海藻類を除去。 ※生物相（サンゴモ等）は一部残す。
処理区 2	ハサミ等を使用し、藻類の根を残す。
処理区 3	ハケなどを使用し、礫、砂、浮泥を除去。
対照区	処理を実施しない。

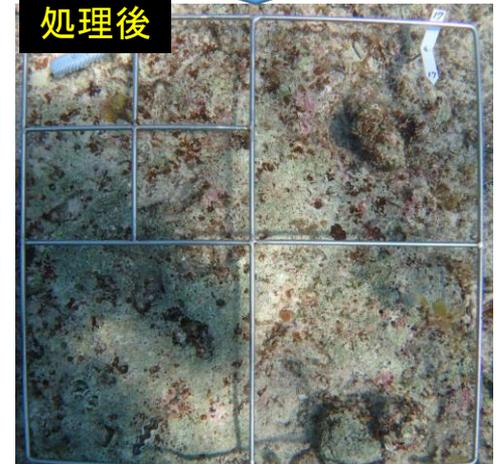
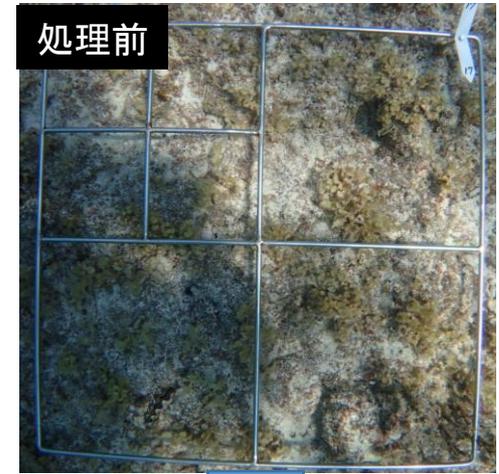
【処理前後の状況】 処理区1(金属ブラシ)



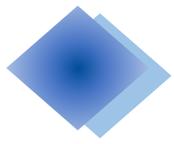
S10 タケルンジュ



S12 シモビシユイサーウチ



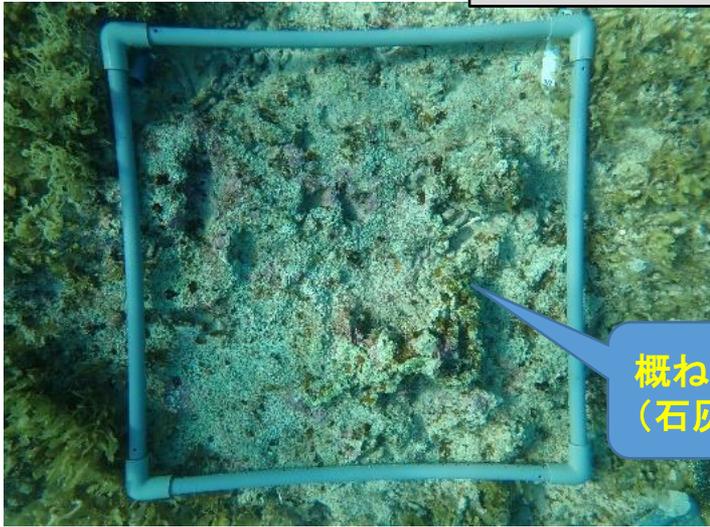
S14 ミルキーウェイ



除去直後の様子

処理区1(金属ブラシ)

処理強度:大

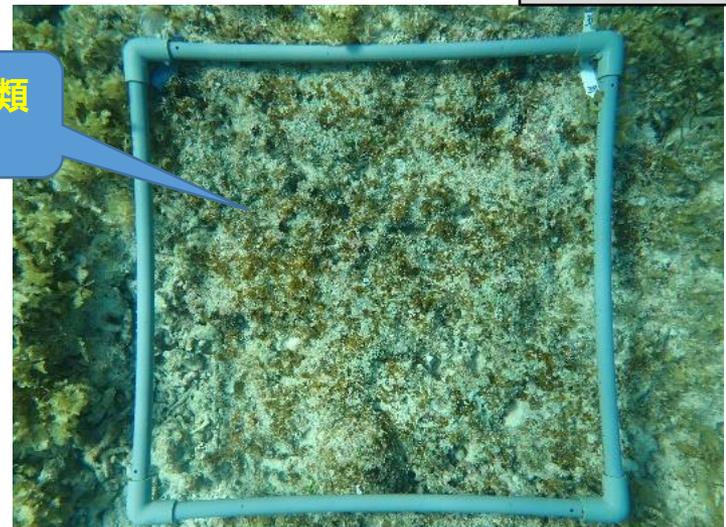


被覆性海藻類
の根は残存

概ね岩盤が露出
(石灰藻は残存)

処理区2(ハサミ、タワシ)

処理強度:中

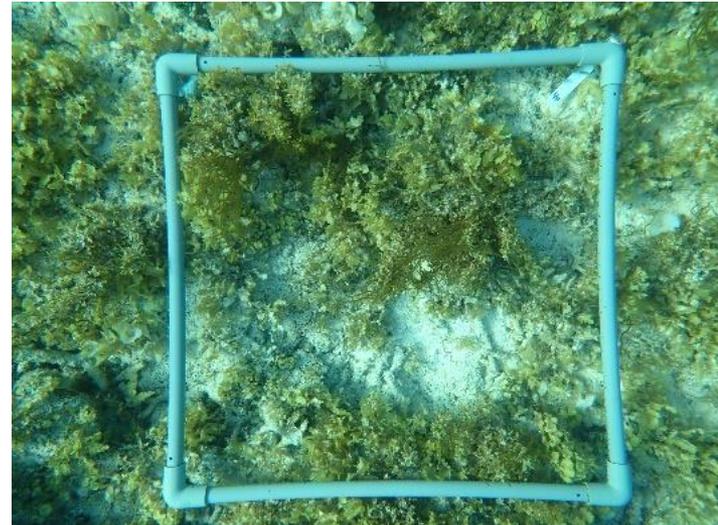


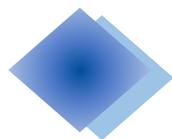
処理区3(礫等の除去)

処理強度:小



対照区

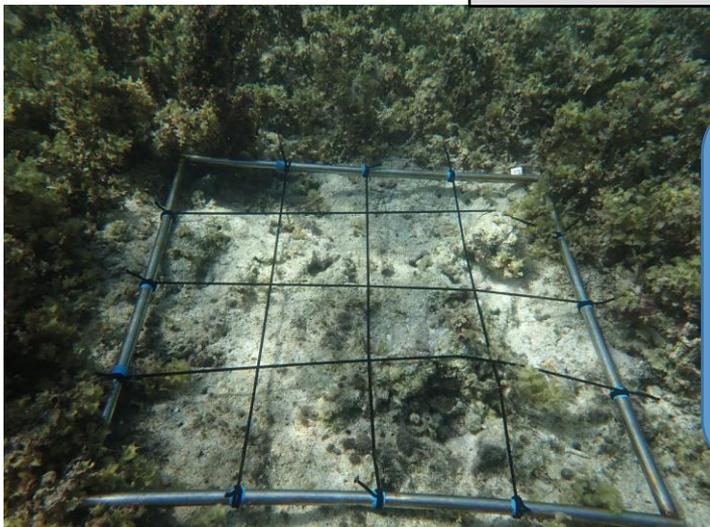




3ヶ月後モニタ:海藻処理の効果が持続

処理区1(金属ブラシ)

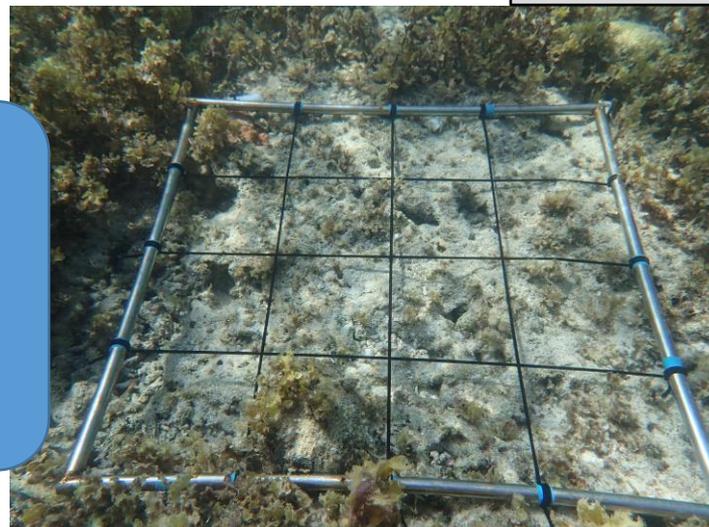
処理強度:大



処理効果1、2
では藻類除去
の効果が持続
(被覆状藻類、
大型藻類を対
象、微小藻類
は含まず)

処理区2(ハサミ、タワシ)

処理強度:中

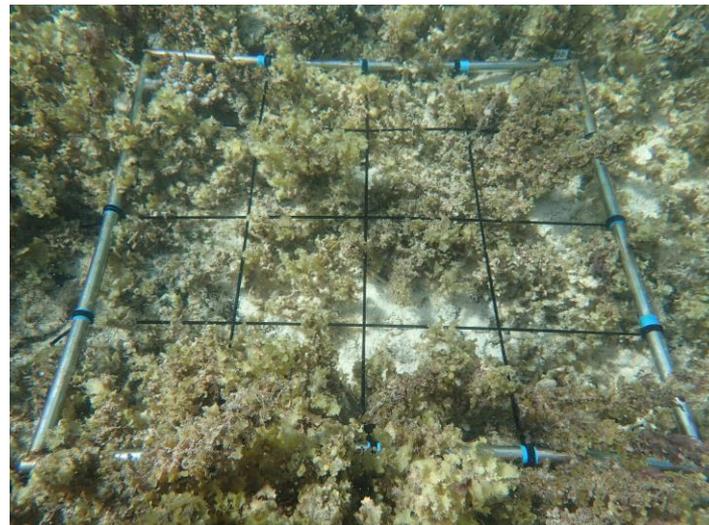


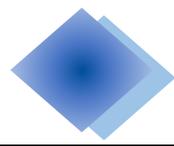
処理区3(礫等の除去)

処理強度:小



対照区





3ヶ月後モニタ:少数の稚サンゴを確認

